

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
問い合わせ 市広報秘書課 ☎43・8113



地域の輪が生徒を育む

福岡中学校でトークフォーカダンス



▲中学生と大人合わせて400人以上が参加しました

福岡中学校の3年生と、その声掛けで集まった大人が、6月2日に開催されたトークフォーカダンスに参加しました。中学生と大人が輪になって向かい合い、司会者が決めたテーマを語り合います。1つのテーマをお互いが話したあと、中学生が隣の席に移り、次のテーマで話します。この活動は今回で7回目で、中学生のコミュニケーション力向上、地域の輪の広がりを目的としています。参加者は市内の大人だけでなく、福岡教育大学の学生30人、熊本県から8人、そしてはるばる愛知県からも1人参加しました。

テーマは「将来どんな恋愛がしたいか」「もう一度中学生に戻れるなら」など斬新なものばかり。テーマ発表だけで会場は大盛り上がりでした。始めは照れていた参加者も、やがて緊張がほぐれ、お互いに身を乗り出して話をしていました。

みんなで地球をきれいに

ラブアースクリーンアップ2018インふくつ



▲たくさんのお子様も参加しました

市内5つの海岸などで6月10日、ラブアースクリーンアップ2018インふくつでも行われています。市内では、市民や事業所などから980人が参加しました。回収したごみの総量は昨年よりも約600kg多い3543kgもありました。これは恋の浦海岸での参加者が昨年の3倍になったことや、津屋崎干潟と勝浦浜で不燃ごみが多かったことなどが要因とされています。

6月から8月はウミガメの上陸、産卵の時期です。希少な生き物のためにも、砂浜をきれいにしていきたいです。

ホタルの乱舞が夜空を飾る ほたるまつり



▲光るスライム作りに子どもたちは真剣

ほたるまつりが6月2日、ほたるの里で行われました。開催数日前にテレビに取り上げられたことから、例年以上の人が来場し、大変な賑わいでした。子ども向けの科学実験教室では、テレビなどで活躍中のかず先生を招き、ホタルのように光るスライムを作りました。北九州市から来た女性は「インターネットを見て来た。ホタルを見ることができて良かった」と話してくれました。

福津に珍しいお客さん 深海魚、リュウグウノツカイが宮地浜に漂着



▲リュウグウノツカイの全長は183cmでした

リュウグウノツカイと呼ばれる深海魚が6月3日、宮地浜海水浴場に漂着していました。発見時には死んでいましたが、他の魚に食べられた形跡もなく、特徴の1つである頭部から伸びる赤いひれもきれいな状態で残っていました。その後県立水産高校に引き取られ、大きさを測るなど、授業で詳しく観察しました。

青空の下で野染めを楽しむ 野染め体験



▲長い布に沿って野染めをする参加者

津屋崎の通称塩倉庫前広場で、全国から集まった40人が5月26日に野染めをしました。指導したのは各地で染め物の作品展や、ワークショップを行っている齋藤洋さんです。参加者は幅120cm長さ20mの布を広げ、野草の束を使って自由に染めていきました。藍やラベンダー、タマネギなどでできた約16色の天然染料を使用。布は乾燥させた後、切り分けて参加者に配られました。

福岡病院が優れた建築物として高評価 福岡県美しいまちづくり建築物の優秀賞受賞



▲中央棟前で受賞の喜びを語る東和也院長

福岡病院の中央棟が、美しいまちづくり建築物の優秀賞に選ばれました。病院理念に添った設計姿勢、緑と調和し、患者が落ち着ける居心地のいい空間づくりが高く評価されました。東和也院長は「患者に寄り添う職員の思いが詰まった建物です。これを機に、より地域とのつながりを深めたい」と語っていました。